

教育目標
「自己を見つめ
他を思いやる心



たしかめ坂

土岐市立肥田中学校
令和7年度 第3号
令和7年6月27日

第2期「仲間と支え合う」

“特別”を“日常(=本物)”に

校長 土本 高夫

6月5日(木)突き抜けるような“青”い空のもと、“赤”く燃える情熱あふれる体育大会が開催されました。笑顔と感動がいっぱいで、第1期「基礎をつくる」の集大成としてふさわしい体育大会でした。保護者、地域の皆様のあたたかいご支援に心より感謝申し上げます。

素晴らしかった体育大会
今日からは、その日の願いと姿が、
「その日だけ」か「本物」(いつでも、
どこでも)かが試されます。
まだまだ成長中のみならず。
「できたこと(成果)は続ける。
できなかったこと(課題)は努力
(挑戦)し続ける。」でいいのです。
体育大会後の、次の目標は何か。
体育大会で競い合った「ライバル」
と互いに切磋琢磨し、一步一步、確
実に前進、一段一段、確実にレベル
アップしていこう！

現在、不定期ですがおよそ1か月に1枚、生徒玄関正面にメッセージを掲げています。左は体育大会後のものです。

体育大会が終わりおよそ3週間。生徒たちは取組の中で、“できたこと(成果)は続け、できなかったこと(課題)は努力し続け”ています。時間を守り、授業をはじめ一つ一つの活動に集中し、自分の役割を果たしながら、仲間と協力して生活をしています。

体育大会という“特別”な時の活動が、“あたりまえ=日常=本物(いつでも・どこでも・どんな時でも)”になってきている。そのことが、第1期「基礎をつくる」(1年間の学校生活の基盤づくり)であると思っています。

先週より第2期「仲間と支え合う」がスタートしています。本校のスローガンは、さまざまな機会でもお伝えしている通り3つあり、第2期は「誰かのために」という意識が大切です。同様の言葉に「助ける」があります。「支える」との意味の違いについて、私なりにはこのように考えています。行為の場面はおよそ同様と思いますが、「支える」は「助ける」よりも自立を支援する行為であり、さらに具体的な行為だけではなく、心的な支援もあるように思います。相手が今どのような状態で何を求めているのか。どのように“支え”ればよいのかを考えることになります。「支える」という言葉は普段何気なく遣われていますが、第2期スローガンのキーワードであるからこそ、あえてその言葉がもつ意味を大切にして取り組みたいと思います。ご家庭においても、よりよい育ちを“支える”ご支援をよろしくお願いします。

16日(月)「命の安全教室(情報モラル)」

岐阜県警察本部少年課の方を講師に招き、生徒を対象に情報モラルについて学びました。以下は校長のあいさつ(一部)です。



… 見えない世界、気付かれない世界であることから、気付いた時には取り返しがつかないこともある。…「何度も勉強したから知っている」と思うかもしれないが、見えない世界は知らない間に変化しているので、気持ちを新たに学び、考えたい。

ネットは生活の一部となり、生活を豊かにするものです。しかし今の問題は、いじめなどの人権にとどまらず、犯罪、あるいは命にも係わることから情報モラルを“命の安全”として位置づけました。“学んだから大丈夫”ということはありません。身を守るためには、正しい情報を得る努力、正しい判断と行動が求められます。その姿と力は、人としての生き方にも通ずる

ものであり、学校でのさまざまな教育活動や日常生活、家庭や地域での生活の中で身に付けていくものであると思っています。